小麦新品种「ニシホナミ」の育成
佐々木昭博・谷口義則・藤田雅也・三氏原人・吉川亮
(九州農業試験場・四国農業試験場・東北農業試験場)

Akihiro SASAKI, Yoshinori TANIGUCHI, Masaya Fujita, Kazuto Ujihara and Ryo YOSHIKAWA:
The New Wheat Cultivar “Nishihonami”

小麦新品种「ニシホナミ」はうどん等めんの食感に優れ、やわらかで耐側伏性を有した品種として、1996年に福岡県において育種奨励品種として採用された。ここに本品種の育成経過並びに特性の概要について報告し、普及の参考に供したい。

1. 背景と育成経過
本品種は1986年4月に、九州農業試験場において、関東107号を母にニミナノコツギを父とした人工交配による雑種系代である。育種法は系統育種法を用い、F1からF3までには混交を利用し育種年限を短縮した。交配親の関東107号は個室中に占めるアミールスの割合が低く、めんの食感に高い評価を得ていた系統である。本品種の選抜に当たってはF1からF3まで、吉川が開発したアルカリ白濁度法・食味水アミログラムの手法を用いて、低アミールスでめんの食感の優れた系統および個体を重点的に選抜した。1991年度に西海173号の系統名を付して関係各県に配付し、地元適応性を検討していった。その結果、関係各位の協力を得て、1995年に本系統を農林144号として登録、「ニシホナミ」と命名された。

2. 特性の概要
1) 形態的特性：農林61号と比較し、稈長は80cmで約14cm短い短稈種で、総粒数は短く、穂数は同程度ある。収穫は「中」で総柄はやや聞き、白いか有芒種で、稈型は紡錘状、子実は形、大きさが中程度で、褐色のやや粉状粒である。農林61号を比べて千粒重はほぼ同程度、殻子率はやや高く、外観品質は同程度である。
2) 生態的特性：播種は「II」の栽培で、播種は「中」、出穂期、成熟期は農林61号より2～3日早いやや早生種である。耐側伏性は強く、耐発芽性は中である。耐病性は蒸餾薬、霧島薬、赤星病には「強」～「やや強」で、うどんこ病、赤かび病には「中」である。
3) 収量性：ニシホナミは慣行栽培で栽培の標準施肥量では収量が上がらず、農林61号とはほぼ同じ44.7kg/aである。多肥栽培では標準栽培に比べ4%程度の増収であるが、ドリル播種栽培すると50.0kg/a約12%増加し、農林61号やシロガネコムギより明らかに多収となる。

4) 品質特性：農林61号と比較し、製粉歩留は66.0%とやや優れ、蛋白含量は同程度で灰分含量はわずかに低い。アミログラム含量は3.4%低く、関東107号の低アミールス特性を受け継いでいる。粉の白さ、明るさはわずかに低く、粉の色づきは同等ないしわずかに高い。アミログラムの最高粘度とブレーキダウンは明らかに大きく、製粉適性は農林61号よりすべての項目で点数が高く、特に粘弹性をとめながら上に優れている。

3. 栽培上の注意
地域の低い地区では収量が上がりにくいので、やせ地や少肥条件での栽培は避けるとともに、ドリル播種栽培で収量の確保に努める。

引用文献
1) 吉川 亮：育種雑誌 38（別2）234-235, 1988。
2) 吉川 亮：日作紀 59（別2）125-126, 1990。

第1表 ニシホナミの特性の概要（1989-1993、九州農試）

<table>
<thead>
<tr>
<th>特性</th>
<th>ニシホナミ</th>
<th>農林61号</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>出穂期（月・日）</td>
<td>4.9</td>
<td>4.12</td>
</tr>
<tr>
<td>成熟期（月・日）</td>
<td>5.29</td>
<td>6.1</td>
</tr>
<tr>
<td>稈長（cm）</td>
<td>80</td>
<td>95</td>
</tr>
<tr>
<td>稈長（cm）</td>
<td>9.1</td>
<td>9.5</td>
</tr>
<tr>
<td>稈数（本/㎡）</td>
<td>428</td>
<td>430</td>
</tr>
<tr>
<td>子実重（kg/a）</td>
<td>44.7（101）</td>
<td>44.4（100）</td>
</tr>
<tr>
<td>（）標準比率（％）</td>
<td>多肥</td>
<td>46.4（105）</td>
</tr>
<tr>
<td>ドリル播種</td>
<td>50.0（109）</td>
<td>45.8（100）</td>
</tr>
<tr>
<td>リットル（g）</td>
<td>775</td>
<td>768</td>
</tr>
<tr>
<td>千粒重（g）</td>
<td>32.4</td>
<td>33.7</td>
</tr>
<tr>
<td>粉度</td>
<td>中</td>
<td>中</td>
</tr>
<tr>
<td>質</td>
<td>中</td>
<td>中</td>
</tr>
<tr>
<td>製粉歩留（％）</td>
<td>66.0</td>
<td>64.0</td>
</tr>
<tr>
<td>60％粉物天頭含量（％）</td>
<td>8.4</td>
<td>8.5</td>
</tr>
<tr>
<td>60％粉分（％）</td>
<td>0.42</td>
<td>0.44</td>
</tr>
<tr>
<td>60％分アミログラム含量（％）</td>
<td>23.0</td>
<td>26.4</td>
</tr>
<tr>
<td>白さ（R45）（％）</td>
<td>57.3</td>
<td>57.9</td>
</tr>
<tr>
<td>明るさ（R55）（％）</td>
<td>72.8</td>
<td>73.3</td>
</tr>
<tr>
<td>アミログラム最高粘度（B.U）</td>
<td>1215</td>
<td>890</td>
</tr>
<tr>
<td>ブレーキダウン（B.U）</td>
<td>699</td>
<td>228</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注）ドリル播種栽培は1991年—1994年のデータである

第2表 ニシホナミの製作適性（1989-94、九州農試）

<table>
<thead>
<tr>
<th>品種名</th>
<th>色</th>
<th>外観</th>
<th>かたく</th>
<th>粘性</th>
<th>なめらか</th>
<th>食味</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ニシホナミ</td>
<td>18.7</td>
<td>15.6</td>
<td>7.2</td>
<td>20.6</td>
<td>8.2</td>
<td>7.2</td>
<td>77.3</td>
</tr>
<tr>
<td>農林61号</td>
<td>17.0</td>
<td>14.2</td>
<td>7.0</td>
<td>17.8</td>
<td>6.8</td>
<td>6.9</td>
<td>69.5</td>
</tr>
</tbody>
</table>